

事例名	子育てサポート大改造！「ちやいるす」アプリ・フリーペーパー始めました。
チーム名 【所属名】	ちやいるすチーム 【健康福祉部医療企画課、少子化対策課（健康福祉総務課、高齢者支援課、子育て政策課、家庭支援課）】
メンバー氏名	（医療企画課）吉田宏則、田中智子、山上真斐子、（少子化対策課）三村久美子
アピール ポイント	<p>≪所属長：健康福祉部医療企画課長 氏名 豊福 淳之 ≫ 「子育てに関わる」というキーワードで府・市町村だけでなく、病院、百貨店、など幅広いカテゴリーの企業・団体とのコラボにより組み立てられている事業です。</p> <p>≪アセッサー：健康福祉部 氏名 宮村 匡彦 ≫ 府・市町村はもとより、民間企業とWIN－WINの関係を築きながら進めた優れた事業です。特に子育てが難しい、乳幼児期のお子さんから始めることにより、お子さんの成長に合わせて長期間利用できるものであり、今後もさらなる充実を期待します。</p>
取組の目的	<p>こどもの健康や子育てに関する悩みごとは保護者にとって切実なものでありながら、どこで入手できるかわかりにくい、ネットでは逆に情報量が多すぎて何を信じていいかわからない、個人の情報をどう管理していいかわからないなど、大きな課題が残っています。</p> <p>「すべての子ども達の健康のために」をモットーに、様々な媒体の「ちやいるす」・様々な主体が一緒になることで、乳幼児の保護者の悩みへのサポートを改造しようとしてきました。</p>
取組の ターゲット	<p>主たるターゲット 0～6歳のこどもの保護者 （最終的には全府民）</p>
取組内容 プロセス	<p>平成25年度における、PC上でこどもの予防接種履歴などの健康情報を自分で管理できる「京都府子ども健康情報管理システムちやいるす」の取組を継承・発展させたものです。</p> <p>システムの検討に関わった市町村、幼稚園・保育園、NPO、医師会などに加えて、「こどもの健康」に関わっている団体を幅広くとらえ、薬局、商業者、観光分野も含めた協力を得ることで、以下が可能な「ちやいるす」事業群へと発展させました。</p> <p>① 乳幼児期の保護者が欲しい情報をスマホ・タブレット、フリーペーパー、メールで入手 ② 色々な所にある自分の（こどもの）健康情報を自分にフィードバック</p> <p>こどもに関する悩みごとという観点で府や市町村（行政部門）だけでなく 安心・安全分野：医師会、薬剤師会、府立医大、京都府警、教育委員会 悩みごとへの相談：マザーズジョブカフェ、NPO サービス向上：タカシマヤ、大丸、アカチャンホンポ、市町村観光協会 など多種多様な業種の団体と協力して取り組んでいます。</p>
成果	<p>府内の全市町村が参画し、それぞれの子育て事業の特性に応じて活用を始めています。情報提供などに協力する企業も順次増えており、府全体で支える正にオール京都体制のネットワークが構築されつつあります。</p> <p>また、「ちやいるす」スマートフォンアプリにより、全国でも先進的な取組として始まった、市町村のもつ予防接種履歴等の個人情報をも本人に提供する取組も来年度より約半数の市町村において開始する見通しとなりました。</p>
工夫した点	<p>「すべての子ども達の健康のために」をキーワードにこどもに色々な立場で関わる企業・団体に協力を求め、システムを府が構築したインフラとして位置づけながら、コンテンツはそれぞれの立場（多少目的の方向性がずれても）で参画できるようにして協力者を増やしたことです。</p>
今後の 展開	<p>府民が健康情報をICTを活用して自分で管理できる事のできる範囲を拡大していき、国や他の自治体にも働きかけて全国モデルへの発展を目指していきます。</p> <p>また、情報提供についても、主旨に賛同する団体を増やすことで、更に保護者の利便性を向上させます。</p>